

福島市教育委員会定例会会議録		
1 場 所	福島市役所複合棟 3階 313会議室	
2 日 時	令和7年11月5日 午前9時00分	
3 出席者		
	教育長 佐藤秀美 教育長職務代理者 渡辺慎太郎 委員 高谷理恵子	
	委員 立花由里子 委員 丹野友幸	
4 欠席した委員		
5 説明のため出席した職員		
	教育部長 橋本江理 教育部次長兼教育総務課長 長南敏広	
	学校教育課長 芳賀沼 彰 教育施設管理課長 半澤一隆	
	教育研修課長 斎藤亮一 生涯学習課長 遠藤 彰	
	中央学習センター館長 高橋義成 図書館長 葛内雄治	
	教育総務課課長補佐兼庶務係長 森山 淳	
	生涯学習課生涯学習係長 小林 潤子	
	図書館図書サービス係長 斎藤 鈴恵	
6 議事内容及び経過		
(1) 開 会	午前9時00分	
(2) 日 程	本日1日間	
(3) 署名人の決定	委員 渡辺委員	
	委員 丹野委員	
(4) 記録係	教育総務課庶務係主査 渡邊貴博	

1 議事

会議冒頭、議案第50号並びにその他 本市におけるいじめ重大事態等の現状については、個人情報等を含むことから関係職員だけで行い非公開とすることについて確認、全員の承認を得る。

議案第47号 第4期福島市教育振興基本計画（素案）のパブリックコメント

について

教育総務課長他（教育委員会定例会提出事項 別冊①により説明）

渡辺委員 最初にご説明いただいた指標について、前回から検討されてい
ることは分かるが、もう一方でこのままだと実際走り始めてか
ら毎年色々と大変だと感じる。令和6年度のポイントとそこか
ら階段式に上がっていく令和12年度という枠組みが強すぎる。

今までの定例教育委員会の議論の中でも例えば過去数年間の幅
を示してみてはどうかなど色々な意見が出て、ものによると思

うが、少なくとも中学校は3年間あるので令和4～6年の幅を

前教育振興基本計画の実績値で示し、それに対して例えばその

中のこれが良い状況なので、それを維持したいというのであれ

ば80%維持するという書き方での良いと思う。何が何でも階

段を1段ずつ上がっていくかなければならないと考えるから辛い

ので、むしろ現状が満足いかない状況なのであれば、これは上

げたい、しかし一足飛びには上がらないから令和12年までに

ここを達成したいとか、ベクトルの在り方をもう少し書き込ん

でおかないと評価の時に大変だろうなと思う。この31ページ、

	32ページの指標の部分は取り上げる施策と指標の種類はこのままで行くとしても、現状値と目標値の書きぶりを必ずしもピントポイントにしない形でもう一度ご検討いただければと思う。
教育長	ただいま指標に関してのご意見がございましたので、まず指標について皆様からご意見がございましたらお願ひいたします。
立花委員	まず指標の目標値をどのように決めたのか疑問に思った。目標なのでそこに向かっていくと思うが、どういった根拠でこのよううに決めたのか不思議に思った。また全国平均以上、全国平均以下としているところについて、人数で出すことが難しい、少子化のため難しいという説明は分かるが、全国平均を目標として良いのか、目指すものなのか。全国平均はその時に出た指標、全国を平均した指標なので、それ以下だったからよかったです、目標を達成した、目標を超したから良かったというものは果たして目標になるのか。福島市ならこういう目標だよというものでなければ目標として成り立たないのでないかと思った。
教育長	その他、指標についてご意見等ございますか。
高谷委員	毎年取つていける指標でなくなると困るので、少なくとも過去3年遡ってどれくらい変動があるのかというところを抑えられる指標を多めに入れていただきたい。そう考えると今回かなり内容が変わったと思う。結構チャレンジングで、私は読んでいて楽しい目標と思っている。ここに向かって新たに行くんだというためにこれまで取っていないけれども新たにこれは今回核になるから作ります。その代わり私たちで調査し続けます

という覚悟を持って新しい指標を入れるということは有りだと思う。全部が全部だと苦しくなるので、既にある指標に関しては履歴を見ていただいた上で、トレンドの上に目標を作ってもらいたいと思っている。それとは別に面白いと思ったところは、トレンドを見て目標を設定しているところと、トレンドは関係なく100%と設定しているところのメリハリが面白いと思っていて、100%としているところはそれだけ大事にするこというメッセージにもなるし、思い入れが強いんだよというこちらの決意も伝わるので、それはそれで有りだと思う。それでも100%は相応しくないと思う指標もあって、学校給食満足度の100%は目指したいけれど達成できないと思う。上記「自分には良いところがあると思う児童生徒の割合」の設問は凄く素敵な問いただと思っていて、例えばこれを出しながら、給食満足度も「自分が大好きな給食が1つ以上ある」とか、そういった目標で100%というのであれば積極的に目指せると思う。毎日ではないけれど確実に好きな給食が1つはあるというものは誇りになると思うので、そういうった指標で良いと思う。もう一つ、不登校出現率に関しては難しいと思っている。これは必要だと思いながら目標値は難しいと思っている。思っては少しでも少なくなるが良いと思う。人数だと割合が分からないので、1,000人当たりの割合を少しでも前年度より下げるというような方向も有りだと思う。2-1 「児童生徒1,000人当たりの不登校生徒の出現率」がどういう形であれ、
--

	2－2 「学びの場につながことができている児童生徒の割合」が入ってくれたことで、良い形でのメッセージだと思う。
	基本方針3－3 「地域の人・もの・ことに関わる学習を通じてわかったことや学んだことがあった児童生徒の割合」の目標値を100%にすることは良いと思う。ただ地域の人との関わりを通じてという前段階があるので、地域の人との関わりがなくとも入れてもらいたい。それを目指すのが今回の計画の自分で学び自分で発見していくところに繋がるので、通常の学びのところも盛り込んだのかなと思った。
丹野委員	目標値ということで、数字で示すところが多くなっていると思うが、数値ではなく目標というものであれば、あえて数値ではなく数値目標はないという目標があっても良いと思う。少しでも減らしていく、そういう方向性等、そういう目標を掲げることも良いと思った。
教育長	教育委員の皆様から貴重なご意見をいただいた。今のご意見を受けて各課で思っていることをお聞きしたい。学校教育課から。
学校教育課長	ご指摘いただいている不登校の数のところは、0%にする100%にするということは不可能だと思っている。その一方で過渡期の部分、喫緊のところで言うと、各学校何人か不登校の子ども、困っている子どもがいるので、1人でも減らしていくければ、60人減ると思っている。一方で、2人増えているという学校もあるので、出たり入ったりではあるが、まずは全国より増えているというところをしっかりと押さえていきたい。もし

かいたら去年より増えたとなっても、実数が増えても、全国平均がそれ以上の増えると、相対的に増加率は減っているというところのバランスもあるので、その部分は難しいし、ざっくりとした相対的なものを見てしまうと、ひとりひとりの子どもに目がいかなくなることがあるので、とにかくまずは全国平均ということで見ていきつつも、学びの場に必ずタブレット等色々な物を使ってでも100%にしていきたい。何とか間違いなくこれだけはやっているというところに力を入れてやっていきたいという思いがありました。数値に踊らされることなく、対応していきたいと思います。基本方針3「地域の人・もの・ことに関わる学習を通じてわかったことや学んだことがあった児童生徒の割合」については、郷土愛というところを連動して総合的な学習の時間や地域に学ぶというところを大切にしながらやつていきたいと思っていましたので、これも100%というところで条件を付けた中で行いましたが、いただいたご意見を参考にしながら進めたいと思っております。
教育研修課長 基本方針1の1－2 「ICT 機器を使って情報を収集・整理し、プレゼンテーションにまとめ、発表・表現ができる児童の割合」について、アンケートを取ったが結果高かった。授業改善に図っているところですから、子どもにどんどん授業を委ねていけば、こういった活動が増えていく。だからといってぐんと上がるかというと、厳しいかなと思う。先程渡辺委員が仰った、例えば80%とか85%を維持するとか、そういう捉えでも良い

	のかなと思う。8割超えれば中身的に良いと思う。そういうところを視野に入れて考えていきたいと思っております。
生涯学習課長	基本方針4について例えば学習センター主催授業の受講者数につきまして、コロナ禍前は10万人以上の利用者がおりましたが、コロナ禍で半減してしまったが、コロナ明け徐々に回復しているところがございます。現実的に人口減少等ある中ではありますが、現実的に利用者を増やしていく中では、この程度が適當ではないかというところで利用者数を設定したところでございます。4-2「学校地域との連携・協力、信頼関係が構築されている学校の割合」につきましては、学校側に確認した内容でございますが、4段階評価の中で一番良い4と回答した学校の割合について、今現在、小・中・義務教育学校等合わせて63校のうち35校が4と回答しているところでありますが、毎年1校でも2校でも増やしていきたいというところで5年後の目標値を65.0%としております。また4-3「オンライン予約システムの利用率」につきまして、学習センターと市民センターでかなり差が開いておりまして、市民センターは今現在90%以上がオンラインで利用しているという状況。それに対して地区の学習センターについては低いので平均値が81.6%となっておりますけれども、福島市としてDXの推進を図っていくうえでも、なるべく慣れていきたきたいというところで現実的なところ86.0%というところで設定をしたところでございます。

教育施設管理課長	給食の指標についてはどのような設定をすれば良いか難しいところでございますが、委員の皆様からいただいたご意見を参考に、現状を維持するところや項目を工夫することで改めて検討したいと思っております。
図書館長	4－2「市民一人当たりの図書等貸出冊数」というところで僅かに冊数は増えておりますけれども人口が減少する中で子どもから高齢者まで、出来れば現状の貸し出し冊数を維持することで人口が減っている中で僅かながらですけれども上げていきたいというところで現状の貸し出し冊数をキープで出来るように5年間をかけて進めていきたいと思っております。
教育長	事務局から回答がありましたけれども、改めて教育委員の皆様から、ここでもう一度伝えておきたいこと等あればお願いたします。
高谷委員	教育研修課長の話を聞いて、ICTについて100%はありえないという話でしたが、ここはあえて100%にしても良いのではないかと思いました。特別な支援が必要な子どもさんや学力の低めなお子さんもいらっしゃいますが、ICTの危機を使う、プレゼンテーションをするというのは違う能力だと思う。ハンディキャップがあるからこそ発信する力とか伝える力は大事になっていく、生きていく力になっていて、勉強とは違うからこそ、そこを強みとして育てていくという決意にもなる。多様なニーズのある子どもたちが唯一「これはできる」と思えるところかもしれない。だからこそ全体の平均

	も高いのだと思う。ということでここは積極的に伸ばしていく。それはスキルではあるけれども信頼関係がないと発表は出来ないので、そういう意味では信頼関係がある中で自分が好きなものを発表するとか、学んできたことを自分の言葉で話すというところにも繋がっていくので、お話を聞く中で100%はありえないという気持ちも分かるが、あえて踏み込んで良い、びっくりするくらい高かったというのは強みなので、それをあえて強みとするということも良いのではないかと思った。100%が難しいということであれば95%など強めに攻めてみるポイントではないかと思った。
立花委員	基本方針1 ICT のところは先程説明でアンケートを取ったと仰っていたが、これは自己評価なので、出来ていると思っているレベルも色々いるという中での目標値なので、私もここは高めにしていただいて問題ないと思う。基本方針4 「市民一人当たりの図書等貸出冊数」が増えていくのは良いが、市民全体の人数で割っていくからこの少ない冊数になっていると思う。これが増えていくことと、図書館を全く利用しない人と利用する人がたくさん利用するようになっているだけでは困るのではないかと思う。利用しない人を減らしたいのか、とにかく貸し出される数を増やしたいのかというところが指標としてどうなのかと改めて思った。すごく図書館を利用する人と今まで全く利用したことがない人もいると思うので、この指標で良いのか。基本方針4 「学びを豊かにする環

	「境づくり」の指標としてオンラインで学習センターを予約する人が増えるとあるが、指標としてはどうなのか。学びを豊かにすることとオンラインで予約できることと関連性が薄いと思った。
渡辺委員	不登校生徒について、計画に載せる指標としては、児童生徒 1,000人当たりの出現率でやむを得ないと思うが、実際には新規発生と解消と解消までの期間という少なくとも3つの要素が絡んでいる。それを個別に載せるというのは難しいと思うが、本当は見ていかなければならないと思う。もう一つ概括的な話で、今指標に関する議論をさせていただいているが、大体は基本計画を作った方と翌年度以降評価していく方が変わってしまう。そのためどうしてその指標を設定し、どういう趣旨で評価しようとしたのかという情報が伝わりにくいように思う。ここに書かなくても良いが、資料編に指標の脚注や注釈を残しておくべきだと思う。こういう考え方でこの出典のこれを資料として採用し、なぜその目標にしたのかはこういう理由だと残しておく。またその他にこのポイントは評価の時に特に重視すべきと残しておく。今もお話をいたいた訳ですけれども、それを資料の方には少なくとも残しておくことで、最悪その指標が消えてしまった、質問調査から外されてしまったという時でもこういう趣旨でこれを行っていたのであればこれを代用できるとか、評価の時に指針で出てくると思うので、注釈・脚注的なものはここに載せな

	くても資料編の載せることはご検討いただければと思います。
教育長	貴重なご意見をありがとうございます。改めて事務局から何かござりますか。
教育研修課長	ICTについて、これから探求が大事になってきた時に、教育活動全体を通じて見ていくことが大事だと思った。子どもたちが色んな場で、例えば教科の学習だけではなく、クラブ活動でも活用できる。色々な学びの場があるわけですから、そういう中で子どもたちが、ICTを得意にしているということが出てきますので、色々な機会を与えていくことが大事になってくる。ここは欲をかいだ方が良いのかなと思いましたので、検討させていただきます。
学校教育課長	不登校のところなどはご指摘のとおりだと思う。それぞれのポイント、ポイントで手を入れることは違うので、全体を見ながら指標に生かすことと、後半ご指摘いただいた不登校に限らず、どこの部分でもですが、どうしてこういう指標にしたのかというところを引き継ぎや事務文書の割り当ても含めて配慮しつつも、資料として文字としてしっかりと残しながら行っていきたいと思いました。
教育長	教育委員の皆様から新たな視点をたくさん頂戴したと思います。点検評価にも関係することなので、意図をしっかりと残しておく。この短い文章の裏にある我々の思いというものをしっかりと残しておく、引き継いでいくということが大事だと思うので、それも含めて今いただいたご意見を基に再度検

	討させていただきたいと思います。指標以外に全体を通して何かござりますか。
渡辺委員	生涯学習課の施策2、施策3について、施策2が「学びを通じたつながりづくり・地域づくり」、施策3が「学びを豊かにする環境づくり」とあるが、このタイトルだけを比較すると違いは分かるが、主な取り組みに挙げられているものが、どうしてこちらに入るのか読んでいて切り分けがし難く感じた。原案作成された方の意図として施策2と施策3をどう違うのか、どう分けたのかというところをお話いただきたい。
生涯学習課長	基本方針4に施策が3つありますが、まず1つ目の施策1「学びを活かした人づくり」の「いかす」という言葉をキーワードとして挙げております。施策2「学びを通じたつながりづくり・地域づくり」の「つなぐ」、そして施策3が「つどう」ということで、環境づくりをすることで「つどう」という形でキーワードを設定しております。それに基づいて取り組みとしてお伝えしております。またのちほど生涯学習振興計画の中でご説明させていただきます。
渡辺委員	施策3に「つどう」という言葉が入ると分かりやすいと思います。
高谷委員	基本方針3、教職員の研修の充実、指導力の向上について、ご説明いただいた時に教育の相似形というものがあるからこそ先生が学び続ける必要があるとお話してくださいって、その通りと思った。しかしここに教育の相似形という言葉は入って

	いない。研修しますというのと学びの相似形について、子どもが学ぶ限りは同じように教員が学ぶんだという思いを持っていることが凄く大事だと思う。子どもの質を高めるということは教員の学びの質を高めること。教育の相似形という言葉で全部表現されると思う。是非素敵な言葉なので入れていただきたい。
学校教育課長	もう少し大きな枠で見た時に働き方推進パッケージ、ここでは質の高い学び、持続可能な学校ということを大事にしていくというところでは、学びの相似形というところで授業場面でもいろんな場面でも大事な考え方だと思っている。働き方推進パッケージのところや、そういったところの根本的なところでは、伝えているつもりでも学校現場に伝わっていない可能性もあるので、今日午後に会議があるので伝えようと思っていた。研修の具体的なところについては教育研修課からの説明となります。
教育研修課長	ごもっともだと思います。子どもの学びのために教師の学びがあるわけですから、学びの相似形という言葉を入れていきたいと考えております。
教育長	教えるプロであり学びのプロであるということですね。
渡辺委員	第3章 施策と主な取組 基本方針1 子ども中心の学びによる自ら学ぶ力の育成 主な取組2 地域を愛する心を育む体験活動・キャリア教育の充実の最後の文章。「正しい知識と判断力を育んでいきます。」とあるが、他は全て「育みます。」と

	言い切りになっている。意図があってここだけ変えたのであ れば別であるが、そうでなければ統一していただいた方が良 いと思う。
教育研修課長	意図はございません。修正いたします。
教育長	いただいた貴重なご意見を検討させていただいて、より良い ものにブラッシュアップしていきたいと思います。
議案第48号 第8次生涯学習振興計画（素案）のパブリックコメントについて 生涯学習課長（教育委員会定例会提出事項 別冊②により説明）	
渡辺委員	素案41ページ、施策3 学びにつながる情報提供の充実の箇条 書きとして（1）から（5）まで挙げられているが、その後の 表で（1）、（2）、（5）となっており（3）と（4）が飛んで いるが、あえてなのか何か理由があるのか、その後にも何ペー ジか同じようなものが出てくるが、どういった内容なのか。
生涯学習課長	今現在の事業として主な事業を記載しておりますが、（3）、 （4）につきましてはこれから検討して追記していくことも考 えております。
教育長	入れるという方向でよろしいですか。
生涯学習課長	その方向で検討して参ります。
渡辺委員	少なくとも枠がないと誤記なのか分からないので、せめて枠を 設けて今後検討くらいには掲載していただきたい。パブリック コメントに出す前に修正していただいた方が良いと思います。
生涯学習係長	先程の施策3の（3）、（4）の部分について事業で示すとする

	と量が多くなるところもございましたので、割愛という形にさせていただきました。
渡辺委員	もし量が多くなるならピックアップして書いていただくなりした方がものとして見るとき分かりやすいかなと思うので、ご検討いただければと思います。
教育長	抜けていると思われないような形にお願いいたします。
立花委員	素案22ページ、基本方針Ⅲの指標のオンラインによる学級・講座数（再掲）の令和6年度の実績が1件で令和7年度の目標が80件とすごく増えているがどのような根拠があるのか。また44ページの（3）図書館本館の再整備について協議を進めますと書いてあるが、具体的に進んでいるのか。市民が思っていることだと思うので何か進展があっての標記なのか。
生涯学習課長	まず22ページの基本方針Ⅲの指標のオンラインによる学級・講座数（再掲）については、7年度は目標値ということで、計画の策定当初1年当たり1学習センター1つは行うということで16館×5＝80件という目標を立てておりましたが、あまりにも乖離している状況です。今回資料から外しておりますがオンラインについて推進しないわけではなく、指標から外しただけでDXについては生涯学習でも推進していきたいと考えております。
図書館長	図書館の再整備についてのご質問について、今のところ未定であります。市役所内部での協議を進めている段階でございます。向こう5年間の中では再整備についても具体的なものを進

	めていきたいと思いますけれどもお示しできるような形にし ていきたいということでの意思表示のためお示しをさせてい ただきました。
高谷委員	目指す姿のウェルビーイングを見た時に、それぞれの人の幸せ を目指しますという意味合いで使われていると思うが、幸せと は何か。ウェルビーイングを頭に置いてこの資料を見ていたが、 資料の説明をしていただいている間にウェルビーイングはど こに行ってしまったのかとなってしまい、ウェルビーイングと いう言葉が宙に浮いていると思う。福島市は何を幸せと置いて いるのかというところが見えにくい。31ページに「いかす」 「つなぐ」「つどう」と書いてあり、このページを見るとつな がっていくことで私たちは幸せを感じる。そのため生涯つなが り続けるために私たちは色々な施策を考えていくという想 が入っていると思うが、私たちの幸せをどのように捉えている のかというところをもう少し説明していただくとウェルビー イングという言葉が理解できるのではないかという印象があ ります。後半説明を聞いていて、丁寧に全て書き上げてくれて いる感じがするが、その丁寧さがあるが故にメリハリがなく、 何を押し出しているのか、何を大事にするのかが分からぬ。 そのため並列で羅列されている感じがする。どれも大事でどれ も捨てられないと思うがアピールしていく、分かりやすさを考 えた時にはウェルビーイングでこれが大事だからこれこそを 押し出しますというようなメリハリをつけていただくと良い

	と思う。またわざわざ”樂”習している。拘ってつけている。
	そのため後半何が楽しいのかもっと入れてほしい。これって樂
	しいよねということが伝わってくる工夫をもう少し入れてい
	ただければタイトルと中身がつながってくると思う。
生涯学習課長	委員ご指摘のとおりだと思います。内容については検討させて いただきます。
	議案第49号 第5次こども読書活動推進計画（素案）のパブリックコメントに について
	図書館長（教育委員会定例会提出事項 別冊③により説明）
渡辺委員	全体を通してアンケート的なものが見受けられるが、概要版の 2ページにある毎年8月～9月にアンケート調査を実施して いるというものと、3ページにある読書に関する調査（本市調 査分）というものと、同じく3ページにある市立小・中学校を 対象とした市独自の調査とあるが全て別々のものということ でよろしいですか。
図書サービス係長	毎年8月～9月に実施しているアンケート調査につきまして は、図書館が主体となりまして「ふくよみの日」を子どもた ちもしくは一般の方々がどれだけ知っているかとい うことを調査するために実施しているアンケートとなってお ります。読書に関する調査につきましては、福島県が主体と なっております、福島県内の小・中学校もしくは高校に調 査を実施している内容でそのうちの福島市の回答分を抽出し

	たという状況であります。本市独自の調査につきましては、
	今回新たに指標として読書に親しんでいると回答している児
	童・生徒の割合ということで設定をさせていただきました。
	そのために今回は指標を設定するために臨時的に「ふくよみ
	の日」のアンケートの中でこの項目を入れまして、設定をし
	たアンケートとなっておりますが、来年度からは小・中学校
	に学校教育課を通してアンケートをおろす形で読書に関する
	調査と一緒に実施していきたいと考えております。
渡辺委員	8月～9月のアンケート調査は具体的にどういう方法で取っ
	ているのか。特に高校生：7人というのはなぜか。
図書サービス係長	アンケート調査はまず市政だよりでアンケート調査を実施し
	ますと告知をして、市政だよりの中にオンラインでアンケー
	トを回答するための二次元コードを貼り付けております。そ
	れと並行しまして、アンケート期間中に図書館と分館、学習
	センターの図書室にアンケート協力のためのしおりを準備
	いたしまして、本を借りた方々に二次元コード付きのしおり
	を配布することで回答いただいているということになりま
	す。図書館の利用状況を見ましても、高校生が突出して低い
	という現状がありまして、その結果このアンケートの回答数
	も少ないという状況があります。図書館の利用状況、今回の
	計画に関しても高校生に対するアプローチが課題であるこ
	とは認識しておりますので、発達段階に合わせた読書活動の
	取り組みという中でも高校の部門につきましては新たにイ

	ベントなどを実施することによってアプローチしていくたいと考えております。
渡辺委員	そうだとすると、アンケートに答える人は何らかの読書に関わっている人が答えていることになってしまっているので、少なくともその情報を資料の中にどういうふうにアンケートを取ったと書いておかないと、学校を通じての調査の結果がこれであったのか、それとも希望者の回答なのか分からぬ。しかもどちらかというと図書館つながりからの希望者の回答ということであれば、表・グラフの見方が変わってくると思うので、そこは何らかの形で加筆していただきたいと思います。
図書サービス係長	補足として、なお小・中学校につきましては昨年度と今年度においては学校教育課を通して通知を発出する形で学校の先生方にご協力をいただいたうえでアンケートを実施しているので、より6年度・7年度につきましては回答者数が多いという状況になっております。アンケートの実施方法について明記するということにつきましては対応したいと思います。
高谷委員	アンケートの内容が分かって、図書館に来た人だけに配って4,700人集まつたのであれば凄いことだと思ったが、結果が分かって良かった。高校は依頼できなかったが、小・中学校に関しては満遍なく実施していただいた結果かなと思えばそれはそれで良い結果だなと思いながら拝見をしま

した。個人的には基本方針1の「5 支援を必要とする子どもが親しむ読書活動の推進」を盛り込んでくださったというところが凄くありがたいと思っております。ここは難しいところだと思っておりまして、小さな文字で大人も含めて読書バリアフリー推進計画と書いてあるので、大人の人口向けの読んでくださるボランティアさんの活動とかも含まれるのかなと思いながら聞いておりました。しかし「5 支援を必要とする子どもが親しむ読書活動の推進」には子どもが親しむと書いてあるので、具体的にどんな活動を想定されているのか聞かせていただければと思いました。
図書サービス係長 読書バリアフリー法がございまして、この法律の第8条によりますと、「地方自治体は、推進のための計画を策定しなければならない」と義務付けられておりましたので、今回はそれにも対応した形を取りたいということで、このような書きぶりとさせていただいております。「5 支援を必要とする子どもが親しむ読書活動の推進」につきましては、まず図書館のハード的な部分としてはご存じのとおり対応が難しい部分がございますので、出来るところからということで、主にソフト的なところでの対応ということで電子図書館ももちろんですが、文字を広げると拡大できたり、あとは音声の読み上げ機能があつたり、というところでまづ対応させていただくところと、あとはD A I S Y図書や、L L ブックなど、視覚に障がいを持った方に見やすい図書

	資料を揃えているところで、計画として改めて位置付けさせていただいたというところでございます。
高谷委員	もし可能であれば多国籍の様々な国のお子さんが福島に来られる時代になってきているので、多読用図書の充実を是非お願いしたいと思っております。英語の多読用書籍も凄く便利で使われる方も多いと思いますが、大人になってから日本語を学ばれる方々用の多読用の書籍、割と高額ではあるので、財政的に沢山準備することは難しいと思いますが、少しずつでもバリアフリーを目指して、マイノリティーの方向けの政策というのも増やしていただけると良いなと思いました。
図書サービス係長	計画の本文の中には日本語を母語としない子どもなどという書きぶりもございますが、主な取組の中に確かにそこまで触れていないという部分がありましたので、検討したいと思います。なお、外国の言葉を使った本については、市内全体で約2,000冊は揃えております。
高谷委員	絵本は凄く充実しているが、優しい言葉で書いてある多読用の書籍はない。大人の人が優しい英語を読む、ハンディキャップのある人達の絵本以外の多読用書籍はとても少ない。絵本は素晴らしい冊数を持っており、そこも是非活用していただければと思いますが、多読用書籍について検討していただければと思います。
図書館長	検討させていただきたいと思います。

様式（ ）

No.

2 教育長報告事項
なし
3 その他
・今後の日程について
教育総務課長（教育委員会定例会提出事項 P 4 により説明）
①次回の定例教育委員会の開催について
令和7年11月26日（水）午前9時00分から市役所複合棟3階
313会議室
終了後に協議会を開催。
②今後の主な行事予定について
教育長・教育委員の出席が予定されている事業を周知。
③今後の教育委員会の開催について
1月定例会は1月7日（水）午前9時00分から市役所複合棟3階
313会議室で開催予定。
午前10時55分休憩。
午前11時05分再開。以下、非公開。
4 その他（非公開）
・本市におけるいじめ重大事態等の現状について
学校教育課長（別冊資料により説明）
質疑及び協議

様式（ ）

No.

以上終了 午後0時05分

記 錄 渡邊 貴博

委 員

委 員